

4 就鳥と云 だより

(第5号) 発行 千鷲会

年頭の「挨拶」



千鷲会会長 朝倉 範夫

会員の皆様、賛助会員の皆様、新たな年の初めにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。千鷲会は千歳基地近傍に居住する航空自衛隊退職者による相互の親睦、地域社会への貢献、千歳基地運営への協力支援等を趣旨として活動しています。また、これらの活動の趣

旨に賛同頂いた法人あるいは個人の方々に賛助会員としてご支援ご協力を賜っております。年頭にあたり厚く御礼を申し上げますとともに本年も変わらぬご協力をお願い申し上げます。旧年中に発生した大規模な自然災害とそれに伴う原子力発電所事故により、避難生活あ

るいは未だ異常な環境の中での越冬を余儀なくされた多くの方々がおられますし本会にも少なからぬ影響を受けた会員がおられ、心からお見舞いを申し上げます。発災後本会としては及ばずながら災害派遣隊員の激励、基地航空祭での義援金募集活動を実施しました。このような全国規模の



あけましておめでとうございます
本年も宜しくお願い申し上げます

きる態勢を作る必要がありその連絡組織について検討がはじまっています。会員相互の親睦については、季節毎の懇親会開催のほか山歩きやゴルフ、パークゴルフ、囲碁、地区毎の活動など分科的な手法による実をあげてゆきたいと考えます。また、千鷲会だよりを積極的に活用した情報・意見交換や相互研鑽を活発化するなど特に若い世代の会員諸氏の活躍を期待します。

賛助会員紹介

ANAクラウンクラブ
ラザホテル千歳
総支配人
下山 徹哉



乗り越えるべき課題も多々ありますが、この一年心を一つにして本会の活動ができるよう皆様のご理解ご協力をお願いすると共にご健康をお祈りし年頭のご挨拶といたします。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。千鷲会会員の皆様には、日ごろよりANAクラウンクラブホテルをご利用賜り厚くお礼申し上げます。ANAクラウンクラブホテルは今年開業十五周年を迎えるにあたり、地域の皆様にもっともっと

基地探訪「掩体壕」

今回は、第2次世界大戦の戦争遺産である単発戦闘機用の掩体壕を紹介いたします。防衛省防衛研究所に残る資料によると千歳基地の掩体数は二十八(小型二十三、中型五)とされ、昭和十八年に小樽高商の生徒が勤労奉仕で制作したそうです。

掩体内側は浸潤防止用のセメント袋が張り付いており、いたって可愛がられるホテルを目指しスタッフ一同心新たに取組んでまいりますので、皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



OTH地区の掩体壕

今回の取材は、千歳市役所総務部市史資料調査員の守屋憲治氏の協力を得て行いました。詳細は、「ホームページ」千歳の「掩体壕」で検索して下さい。

昭和三十三年七月十七日第十八期生として山口県防府基地教育隊に入隊、三か月の基本課程を修了後専門職種を学ぶため奈良の幹部候補生学校英語教育課程所属を命ぜられた。しかし、前期の学生が卒業するまでの一か月間、第二航空団行を命ぜられ防府の三田尻から二泊三日の汽車で生まれて初めて北海道千歳に着いたのは冷たい秋風が吹く九月の末でした。

第二航空団は昭和三十一年に国内最初の実戦部隊として浜松基地で新編され、翌年千歳基地に移駐したのです。当時の千歳基地は、第二次世界大戦後米空軍基地として使用され

編成もなく全隊員が同居、隊舎内の行き来もベッドの上を歩いて移動しなければならぬ状態で災害時の避難所のような状況でした。また事務所なども全てがこのような状況で職

場は一部を除き米軍と二緒に執務しておりました。我々派遣隊員は、一〜三名のグループに分かれて通勤トラックの助手や監理部の印刷など当時はガリ版の仕事をしていました。一方二空団所属の隊員は、団司令以下百五十名ほどが六〇〇地区(現在の基地防空隊)で米軍が使用していたカムボコ隊舎で部隊建設を進めており、団司令室や司

二空団創設期の想い出

二空団OB 影山 廣

司令部などもベニア板で仕切られたお粗末な事務所でした。(第6号に続きます)

秋の懇親会

恒例の秋の懇親会が十月十四日、ホテルグランテラス千歳において行われた。会には正会員及び賛助会員合わせて六十三名が参加し新入会員の紹介が行われるなど、楽しい思い出話などに花を咲かせていた。



年度最終コンペ 千鷲球会

千鷲会サークル活動の一つ、ゴルフの「千鷲球会」は、十一月四日に行われた例会と十一月二十五日に開催された打ち上げ会をもって今年度の活動を終了し、冬籠りに入りました。当会はゴルフを通じて会員相互の親睦を図ることを目的としています。

感動の山頂風不死岳・坊主山 山登り愛好会

愛好会は、計画に基づき十月十五日に風不死岳北尾根コースに挑みました。登山口では、生憎の雨でしたが、中腹にかかる頃には雨もやみ、頂上近くの急坂を喘ぎ喘ぎ、全員無事頂上に辿り着きました。ご褒美は雲海から頭部を出した樽前や恵庭岳等、山々の幻想的な姿でした。その絶景を三



十の瞳に焼き付け得した気分を下山の途についた。十一月三日は、二十三年最後の登山坊主山を実施しました。金古二空団司令、遠田基群司令も参加され晩秋の青空の下、良く整備された登山道、急坂もなく和気藹々と山頂を目指して一時間十分、途中で少し休憩をとり山小屋へ荷物を置き、いざ頂上、上空には、数本の飛行雲、稀に見る好天に恵まれ三百六

十度の大パノラマに感動でした。山小屋で会員の方々提供の鹿肉、ジンギスカン、野菜、菓物等で賑やかに昼食。山での食事の味は格別でした。絶景と食を満喫して総勢二十一名、大満足で山小屋を後にしました。二十三年は、ほぼ計画通り実行できましたが、体調を崩された人も居ましたので二十四年は、体調を万全にして全会員で登山を楽しみたいものです。

会員は千鷲会会員と賛助会員合わせて七十名で四月から十一月まで月1回年間8回の例会(コンペ)を実施しております。参加者は、毎回二十五〜三十名程度です。また、ゲストとして現役隊員、そして特に八月のコンペは基地航空祭の翌日に実施しており、道外に住いのOBも参加していただいております。ゴルフはほかの競技とはちがって審判がいまぜん。競技者自身が審判でありルールはもちろんのことマナーを守ることが非常に重視されるので「紳士のスポーツ」と呼ばれています。当会会員は正に紳士の集まりで楽しく運営しておりますので、ゴルフに興味のある方の入会をお待ちしています。お問い合わせは幹事・畑田信也(090-3890-968)までどうぞ



平成二十三年九月十三日、本邦の遙か南方洋上で発生した台風十五号は、南大東島付近を自転車並みの速度で長期間迷走し、その後徐々に加速しながら奄美地方東方洋上を北上して、九月二十一日午後静岡県浜松市付近に上陸した。その数日前に通過した台風十二号に続いての上陸で、列島各地に冠水や浸水被害が続出したことは、どなたにも記憶に新しいことかと思う。

さて、台風十五号と聞くと、私には決して忘れ去ることの出来ない特別な思い出がある。一九五四年(昭和二十九年)九月二十六日発生の青函連絡船「洞爺丸」が沈没した所謂『洞爺丸台風(台風十五号)』のことである。私は、学生時代の四年間少くとも年間三回は東京〜北海道を往復していた関係もあり、青函連絡船には都合百八回乗船した経験を持っているが、初回は一九四五年(中学三年生)の修学旅行で、船は奇しくもその洞爺丸であった。なぜか洞爺丸には不思議



青函連絡船の思い出
千鷲会専与
中村 文保

たとのこと・・・よって私の実家でも、例えば約三百本のサクラランボの木は二十数本を残して根元から見事に倒れ、また収穫直前のりんごは全てが落下という状況だった。所謂農家としては全滅に近い状態であり、私も東京での学生生活継続の是否を真剣に考えた程であった。強風下で乗船した経験も多々あったが、前述

の百八回の乗船に際し、足止めを喰ったことは一度もなく全て計画通りに行動でき、当時私は自分をしみじみラッキーボーイだと感じたものである。但し、船内で畳の上で寝そべっていても、人が横向きにころころと転がる様はなんとも異様な情景であり、決して気分の良いものではなかった。一方、晴天下で甲板から眺める海面上のイルカ(時には百頭超)が船と競い合ってウルトラCまがいに泳ぐ様は、今も脳裏にはつきりと焼き付いている実に楽しくかつ、美しい景観であった。洞爺丸以外にも羊蹄丸、大雪丸、摩周丸、十和田丸、八甲田丸、津軽丸等々・・・いろいろな船に乗ったが夫々の機会に多くの人との出会いがあり、今考えても楽しい思い出が一杯である。青函トンネルの開通で時間的に大きく短縮された効果は大きいですが、その一方でかつての情緒が失われたことに愁いを覚える今の私でもある。

千鷲会の会員数 (二月一日現在)

正会員	677名
賛助会員	16社
個人	14名

各紹介

- 新入会員
川端 洋一 (基群本)
石川 良夫 (衛生隊)
寺井 邦彦 (3移通)
遠藤 定男 (特輸隊)
蛭子井清一 (射動隊)
瀧川 義隆 (装備隊)
小島 茂 (3高群)
清水 徹 (飛動隊)
小松原章裕 (201隊)
物故会員
石川新治郎 (弥生)

事務局からお知らせ

新春の集い
日時：二月二十四日(金)
会場：エアポートホテル
アネックス
会員へのご案内は、戸別配布の「新春の集い」(ご案内)のとおり。

投稿記事の募集
会員皆様方の活動状況を掲載いたします。ボランティア、趣味、体験談、随筆、評などジャンルは問いません。自薦、他薦大歓迎です。投稿先及び問合せ先
堀 (42) 0295
国井 (28) 4302
芦田 (26) 4053